



**ASOCIACION DE NIKKEI BOLIVIANO - JAPONESA
(ANBJ)**

Calle J. Coimbra No.57

Casilla Postal No.2006

Santa Cruz - Bolivia

Tel.: (591-3) 333-1452, 337-8398

E-mail: bolivia.rengoukai@gmail.com, anbj.bolivia@gmail.com

Facebook/anbj2021/, Instagram anbj16/



お礼状

神奈川大学 産学連携事業

「本の架け橋プロジェクト」の皆さま

拝啓

皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ボリビア日系協会連合会会長の宮城と申します。

今般、弊会のために書籍を寄贈いただき、御礼申し上げます。

ご周知のとおり、世界的なコロナ渦中において、当地ではワクチン接種が進んではいるものの、年末には第4波の到来が予想されており、予断は禁じえません。

このような状況下において、弊会構成団体においては、未だに対面式の盆踊り、豊年祭、日本祭りなどが行えない状況にございます。他方、日系社会、現地社会を問わず、オンライン形式の交流会、講習会などが広く浸透していることもあり、ご寄贈いただいた書籍はこの方面で活用させていただきます。

今般は、はるか遠い当国のために貴重な寄贈品をお届けいただき、改めてお礼申し上げます。

末筆にはございますが、皆さまのご健康とご活躍をお祈りいたします。

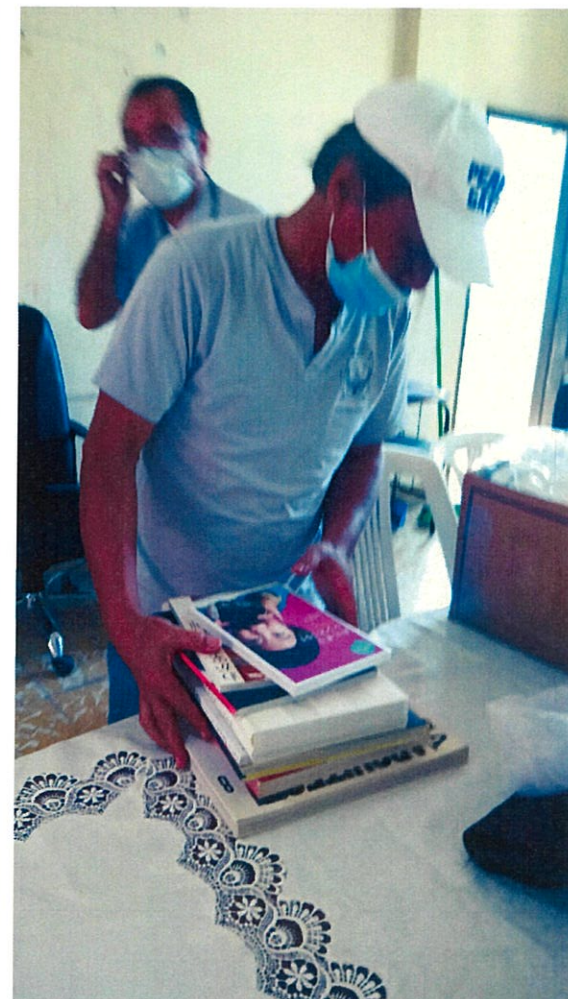
敬具

2021年10月18日

ボリビア日系協会連合会
会長 宮城 和男



10月8日、長旅を経てご寄贈の
図書は無事ボリビア日系協会連合
会に届きました。
事務局は大騒ぎ。数量確認より先
に各々好みの本を手にとり眺め
始めてしまいました。
今後、日系の若い世代や日本文化
に興味のあるボリビアの人たちに
いただいた図書を活用しながら
文化講座を企画していきたいと思
っています。

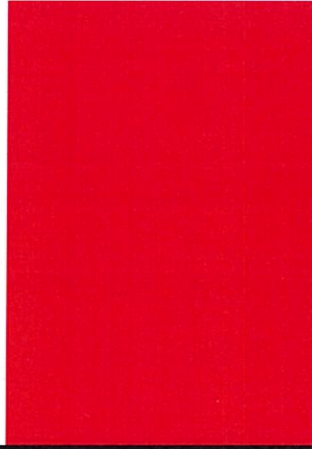


貴重な書籍の寄贈
ありがとう
ございました。

MUCHAS GRACIAS!



事務局の本多光さん（左）は
まだ一度も日本に行ったこと
のないサンファン移住地出身の日系
3世。インターネットで日本の音楽
やテレビ番組などは日常的に楽し
んでいます。本に触れる機会が
少なく、目を輝かせてページを
めくっていました。そういった
若い世代に貸し出すことも考えて
います。



来年こそ盆踊りが
開催されます
ように・・・





ボリビアだより

ボリビア日系協会連合会



こんにちは!

ボリビア日系協会連合会です

Hola(オラ)!日本の真裏に位置する南米・ボリビアに多くの日系人が暮らしていることをご存じですか?私たちボリビア日系協会連合会は国内に約1万4千人いる日系人とその団体をまとめる活動をしています。2019年にはボリビア日本人移住120周年という歴史の節目を迎えました。先人たちの苦勞と活躍のおかげで、ボリビアにおいて日本および日本人への信頼はゆるぎないものとなっています。特に農業分野での日系人の活躍はボリビア経済に大きな影響を与えました。また、昨今、アニメ、ゲーム、武道、和食、しつけなど、日本文化や教育への関心も高まっており、ボリビアの人たちに対する文化普及・啓蒙活動にも力を入れているところです。

所在地:

CALLE J. COIMBRA 57,
CASILLA 2006,
SANTA CRUZ, BOLIVIA

Eメール:

BOLIVIA.RENGOUKAI@GMAIL.COM

電話: (591-3)333-1452



ANBJ - ASOCIACION DE
NIKKEI BOLIVIANO JAPONESA
- ボリビア日系協会連合会



ボリビアの日本



ボリビアには9つの日系人会があります。そのうち、サンタクルス県、ラパス県、ベニ県、チュキサカ県では日本の伝統行事が毎年行なわれています。昨年、今年とコロナウィルス感染症拡大のためにすべて中止となってしまっていますが、各地で盆踊りやお祭り、運動会や駅伝大会など日本さながらの盛り上がりを見せます。特に盆踊りには日本人・日系人だけでなく、ボリビア人もたくさん参加し、日本食に舌鼓を打ちながら、見よう見まねで踊りの輪にも加わって楽しめます。

サンタクルス県にはオキナワ移住地とサンファン移住地というふたつの日本人移住地があり、親から子、子から孫へと日本の伝統や文化、習慣がきちんと継承されています。

オキナワ移住地は戦後沖縄県からの移民により形成されました。1979年までに約3,400名が入植しましたが、度重なる水害や干ばつ等の自然災害に見舞われ、隣国へ再移住した人も多く、定住した方々の大変な苦勞と努力の末、現在の移住地と農業を発展させてきました。今では「ボリビアの小麦の首都」と呼ばれるほど国内有数の穀物生産地となり、ボリビア経済にも大きく貢献しています。移住地には2つの日本語学校があり、言葉だけでなく、三線やエイサーなど沖縄文化の継承にも力を入れています。サンファン移住地には長崎や福岡など九州からの移民が多く暮らしています。1955年から1992年まで約1,700名が入植、原生林を切り拓き、こちらも国内有数の穀倉地帯となりました。現在では稲作、養鶏、柑橘栽培に従事する日系農家が多くあります。サンファンの方たちのおかげで地球の裏側にいながら、美味しい日本米を食べることができます。また、移住地内の食堂では長崎ちゃんぽんを食べることができます。



ボリビア人も一緒に炭坑節



オキナワ移住地大運動会

フォトギャラリー



メルカド（市場）の精肉店



メルカド（市場）の八百屋



アルマジロの丸焼き



日本食店のSUSHI盛り合わせ



オキナワ日ボ校での三線の授業



サンファン移住地名物・長崎ちゃんぽん